



11月4日(火)

子どもの悪ふざけに6700万円払えますか？

文科省:学校ネットパトロール調査研究協力者や総務省の青少年のインターネット利用に関する連絡協議会の座長を務める兵庫県立大学環境人間学部教授の竹内和雄氏の講演から

回転寿司店で悪ふざけの動画がネットで拡散した事件が社会問題になりました。迷惑行為をした少年に6700万円の損害賠償金の支払いが認められました。この額は果たして高いのか？お店(会社)が受けた損害は160億円にもなるそうです。それに比べると安いことになります。本人・家族・親族を含めてこれくらいなら支払えるだろうというのがこの金額です。ネット上の安易な悪ふざけがこうなることを子どもたちに知らせることです。

こんな事件が横行すると、ネット(スマホ)禁止議論が沸き上がっても当然のように思います。今のところ16歳までは禁止というのが有力です。ところが調査によると0～1歳児のネット利用率は62.6%もあります。そのほとんどはYouTubeを見ている。(親が見せているのです。)親がかまってやれない分、子どもが好きなものをテレビやタブレットで見せているのです。スマホの携帯率は小5で50%を超えています。小4までに正しい使い方を教えるければならないことになります。

ネットトラブル、校内暴力、いじめ・不登校は、中学・高校生は横ばいなのに対して、小学生が急増しています。小学生が朝、登校するなり、喧嘩を始める。前日の対戦型ゲームでのイライラが引きずっているのが原因なのです。これまでネット問題にかかわってきましたが、ネット問題の答えは、ネットの中にはないことを痛感しています。家庭環境からくるリアルな生きづらさや困難の表出先が、たまたま今のネットになつていると気づきました。ネットの正しい使い方を学校でも教えないし、親も誰も教えていないことが問題なのです。悪ふざけをした少年にこれからどうしたいと聞くと「お母さんは、少し休んでほしい。一緒にご飯が食べたい。」と言ったそうです。スマホの使用を禁止すれば解決する問題ではないということです。

11月5日(水)

AIの進化でなくなる職業はどっち？ 竹内和雄先生の講演から(2)

デパートの店員 VS スーパーの店員 コンビニやスーパーでは2025年までにセルフレジを導入することを目標にしていましたが、それよりも早く実現しました。デパートの店員は、お客様の好みや要望に応じた品物選びをしなければならない高度な接客が求められるので残ると言われています。

税理士 VS 弁護士 これも依頼者、相談者、それぞれの事情に対応しなければならない弁護士が残ります。

通訳者 VS 翻訳者 翻訳はすでにAIが行っています。通訳は、相手の表情やしぐさを観察して適切な言葉を選ばなければならない高度なスキルが必要です。

なくなる職業に共通するのは、同じ内容を間違いなく、長い時間する仕事は、AIに取って代わるのに対して、ならない仕事には、共通点らしきものはありません。強いて言えば、協調性、高度な仕事内容、創造性、特別な知識でしょうか。これらが令和の教育に求められるのです。ちなみに教員は、中学・高校の教員はなくなる可能性がありますが、幼稚園やこども園の保育者や小学校の教員は残ると言われています。ただし、生徒指導や進路指導ができない教員は、切られるかもしれません。企業が採用にあたって重視することは、「コミュニケーション能力」、「誠実性」、「論理性」で、出世する人は、自分の考えを主張するプレゼン能力のある、ファシリテーター(会議などを円滑に進める進行役)です。これまでの日本社会とは全く異なる社会がすぐそこまで来ています。ですから「教育改革はまたなし」なのです。

11月6日(木)

いじめっ子 仲よしグループが危ない？ 竹内和雄氏の講演から(3)

仲よしグループがいじめの温床になる。仲よしグループでは、みんな一緒に、目立つことや飛びぬけたこと

をすると仲間外れになる、それが怖いのでLINEグループでは、友だちの悪口は言わない、暗黙のルールを破ると「無視」され、そこから「いじめ」へと発展する。ところが爆発するのを恐れるから、辛い目にあっても誰にも相談しない。親に相談すると、いじめた子の親のところへ怒鳴り込んでいくかもしれない。先生に言うと、帰りの会やHRで取り上げられるからだ。そんなことも知らない親や先生は「何かあったら、すぐ相談して…。」と言う。

未だに「いじめ」や「不登校」が減らない理由は、子どもの本音を大人が理解していないからだ。いじめられた子、不登校の子に「どうしてほしいか?」と聞くと、「給食にデザートを出してほしい。」とか「学校で『だるまさんが転んだ』をしてほしい。」など、しようもないことを言う子がいる。ところが実際にやってみると不登校やいじめが減ったという報告がある。親に望むことはと聞くと「少し休んでほしい」とか「いっしょに夕飯を食べたい」など、親を気遣う答えが返ってくる。回転寿司で悪ふざけをした少年もこう言っていた。「いじめを見たら、あなたはどうしますか?」、小4までは「止める」と回答する子が65%と半数以上いる。ところが学年が上がるにつれ減少する。その理由は「止めたら、逆にやられるから」と思うようになる。また、いじめの被害者が加害者に加害者が被害者になる。よくあることで、誰もがなる。だから「いじめた子が反省したら、許してあげてほしい」と子どもたちは言う。

不登校で問題行動を繰り返す子に「どうしてまじめに勉強しないのか?」と聞くと「勉強したらアホなことがばれるから…。」と答えた。

ネットトラブル、いじめ、不登校など生徒指導の基本は、子どもの話をしようもないことでもよく聞くこと。大人が変わらなければ、子どもは変わらない。と竹内先生は話していました。



11月7日(金)

「てめえ～、このやろう、ぶつ殺すぞ！なめんなよ」

こんな会話が児童センターであって困っていると「ゆめゆめ」の先生が言っていました。「そんな言葉づかいをしてはいけません。」と注意しながら、どこで覚えたのだろうと思います。

「心にあるものから人は語る」「言葉遣いは心遣い」という格言があります。発せられる言葉は、その人の人柄を表します。言葉遣いで育ちが分かれます。子どもの言葉遣いは、親のコピーだからです。まずは、親が正しい言葉遣いに努めなければなりませんが、情報化社会では、好ましくない様々な言葉が、子どもたちの周りに散乱しています。

だからこそ、親は子どもの間違った言葉づかいを矯正する必要があります。言葉の間違いを犯さない子どもは一人もいません。子どもは単語のさまざまな組み合わせ方を試します。その組み合わせが間違っているのに、誰もそれを指摘して直さないなら、子どもはそれが正しいと誤解して使い続けてしまいます。

間違った言葉使いが、SNS 上の誹謗中傷につながります。人を罵倒したり差別したりする不適切な表現が含まれていることがあるので要注意です。そんなとき、親は「そういう言葉を使ってはいけません。」と厳しく注意する責任があります。そうしなければ、子どもはそれを受け入れられると思い込んでしまうからです。言葉の使い方が不適切だと周囲から拒絶と批判を招き、自尊心を台無しにします。まずは大人が範を示すことです

心がホットステーション 通勤時、横断歩道を渡ろうとする小学生が居たので車を止まって待っていると、渡り切ったところで、深々と頭を下げました。朝からいい気分になりました。親の顔を見てみたいと思いました。

11月10日(月) 親戚の子から「3歳と5歳の子どもの七五三のお祝いに、札幌のスタジオで記念写真を撮って、そのついでに北海道神宮にお参りに行ってきました。」と出来上がった晴れ着を着たかわいい兄妹のアルバムを見せてもらいました。



この話を聞いて「?」と思い、調べてみるとAIが答えてくれました。

「七五三」の本当の意味は、**「氏神様(地域の守り神)に、子どもの健やかな成長を感謝し、今後の健康と幸福を祈願する」**ことです。これは、かつて乳幼児の死亡率が高かった時代に、7歳まで無事に成長することを「神の子」として捉え、成長の節目を祝う儀式が由来です。現代でも、その根底にある親の「子供を思う気持ち」は変わらず受け継がれています。

記念写真を撮影するのが「七五三」のお祝いのように思っているようですが、AIは「氏神様に今後の健康と幸福を祈願する」と言っています。フォトスタジオ選びは、どこでもいいと思いますが、地元の神社を参拝しないと3歳から地元離れが始まることになります。AIの言うことは聞くことです。



11月17日(月)

まだある特別支援教育への偏見・差別？

特別支援教育への理解が深まりつつあると思っていましたが、まだ誤解や認識不足があるようです。就学時検診の知的検査から、ひし形やらせんを正確に模写する力、数を数えることはできる量（多い少ない）の理解が深まっていない。複数のことを記憶するのが苦手など、子どもの発達には個人差や特性がありますが、それが障害とは言えません。一人一人の特性を見るために就学時検診では、知的検査や社会適応検査を行っています。また、発達支援事業で美幌療育病院の三和先生にも普段の様子を診てもらっています。

小学校に入学してから、理解するのに時間がかかったり、字がうまく書けないことで勉強嫌いにならないように、支援学級で、個別に丁寧にきめ細やかな指導を受けることでクリアーすることができます。支援学級に在籍しても、国語や算数以外の音楽、体育、図工、生活科、道徳などは通常学級で過ごします。休み時間も一緒です。授業見学をしましたが、担任が一人一人に寄り添った指導をしていました。その子に合った教育を行うのが特別支援教育なのです。

支援学級の在籍は、12月に開催される町の就学指導委員会で決まります。ここでは支援学級から通常学級への変更も検討されます。支援学級に入ったら、卒業するまでずっと支援学級ということはありません。

こども園では国語や算数の勉強はしませんが、えんぴつやクレヨンで絵や図形を描いたり、ゲームやカルタなどで数を数えたり、遊びや日常の生活体験を豊かにすることで小学校の学びにつなげています。

「わくわく10年記念講演会」で、国立特別支援教育総合研究所の久保山先生から「インクルーシブ教育の推進と共生社会の実現を目指す」お話がありました。差別や偏見のない社会の実現には、一人一人の努力が必要です。特別支援に関わる心配・不安なことがありましたら、遠慮なくご相談ください。

11月18日(火)

学力低下の原因は少子化？経済的理由？

先日、全国学力調査の道内管内別の結果が公表されました。残念ながらオホーツクは下から2番目でした。この危機的な状況を受けて教育委員会では、学力向上委員会を立ち上げ、11月11日、訓子府の子どもたちの学力UPの方策を話し合いました。学力向上は小中学校の問題ではありません。こども園からも参加して、就学前に取り組んでいることを伝えました。

少子化の今、「読み書き計算」が身につかないままでも高校・大学進学の門戸は広く、結果的に社会に「読み書きがままならない」若者が増える深刻な状況にあります。

学力低下を補うためにドリルを買ってきて、自宅で親が管理して勉強をさせることは共働き家庭では、なかなか難しい状況にあります。そうなると塾に通わせることになるのですが、塾は費用がかかります。公式教室の月額会費は一教科約7千円で国語と算数だと約1万5千円、子どもが2人いたら倍です。物価高で実質賃金が下がる中で3万円の出費は無理！

文科大臣が「経済的背景の低い層の方がスコアの低下が大きいことを重く受け止めている。」とコメントした裏にはこうした事情があります。

日本国憲法では「子どもの教育を受ける権利」が保障されていますが、現状の公立学校では、その保障から抜け落ちてしまう児童が増えつつあるように見えます。

そこで訓子府の小中学校では、塾に頼らない学力向上策に取り組むことにしました。学力・学習状況調査では、訓子府の子は、家庭学習の時間が全国平均より大きく下回っています。その分、ゲームやスマートフォンの時間が多く、家庭ではほとんど勉強していない子が多くいます。学力向上は、学校だけで解決する問題ではありません。保護者

や地域の協力が必要です。「うちに子はまだ小さいから…。」と言っている場合ではありません。みんなで考える問題です。

「勉強だけできたってね～。」という人がいますが、「せめて全国平均並みの基礎学力をきちんと身に付けましょう。」ということです。どんなに時代が変わっても基礎学力は、社会生活の最低の条件になります。



11月20日(金) 5歳児の発表会終わる

19日、5歳児の発表会でした。会場の片づけなど全て終わると、先生方は、約1ヶ月間の準備と指導をやり終えた安堵感と子どもたちのがんばりへの感動、そして、満足感に浸っていました。

保護者の皆さんにも、子どもたちの成長を感じ取っていただけたことだと思います。

5歳児は、10月初めに実施した就学時健康診断の言葉の検査で、赤ちゃん言葉が残っていた子が1か月後に吟味検査をしたところ、ほとんどの子が改善されていて、中には全く問題がないと言わされた子もいました。

1ヶ月で何があった？ 発表会の劇の練習

「セリフは、大きな声で、ゆっくり、はっきり言いなさい。」と毎日先生から言われて練習したからです。

3・4歳児のオペレッタは、子どもたちが演じやすいように音楽だけでなくセリフや踊りも含まれる音楽劇(CDから流れる音楽に合わせる)ですが、5歳児になると劇になってセリフが多くなります。長いセリフを覚え、大きな声ではっきり言う練習を繰り返したこと、発音が著しく改善されたのです。

2歳児の時のお楽しみ会を思い出します。舞台に上がって音楽が流れても、全く動かなかった子が何人もいました。そんな子どもたちが、5歳になって、本番では緊張もあったでしょう。一瞬セリフがとんで沈黙する場面もありましたが、最後まで演じ切りました。子どもの成長は「本当にすごい！」と改めて感じました。涙を浮かべて観るのもよくわかります。

11月28日(金) 園では毎日読み聞かせをしています

絵本の読み聞かせには、子ども自身の「心の安定」や「想像力・語彙力・共感力の向上」を促す効果があるからです。また、「コミュニケーション能力」や「スキンシップ」を深めることができ、子どもの「集中力」を養うきっかけにもなります。子どもの発達に読み聞かせは欠かせません。

○物語の世界に没入することで、想像力や豊かな感性が育まれます。

○普段使わない言葉を知り、語彙力や表現力が豊かになります。同じ絵本を

繰り返して読むことで、記憶力や理解力も向上します。

○物語に引き込まれることで、集中して話を聞く力が鍛えられます。

○読み聞かせの時間を安心できる時間として、子どもの心が安定し、自己肯定感も高まります。

○絵本を通して、子どもの知的好奇心を刺激し、世界を広げるきっかけになります。

*親のストレス解消にもなります。

読み聞かせは親にとっても、リラックスする時間や気分転換になることがあります。

こども園の先生は、どうやって絵本を読んでいるのか？

プロの技 「子どもの表情を見るのが7割、読むのが3割」

子どもの様子を感じ取りながら読んでいます。子どもの表情や息遣いに目を配りながら読み進めることで、より豊かな対話が生まれます。集中しやすい環境を整えるために、子どもの視界に余計なものが入らないようにするなどの工夫をしています。

11月に園長の読み聞かせがありました。子どもたちが絵本と出合っているときの、真剣でキラキラ輝くまなざしは、保育者にとって魅力的に映るものです。絵本の読み聞かせは、両方に魅力的なものです。